

第6回「あと数マイル・プロジェクト」推進検討会議議事概要

- 1 日 時：令和8年1月28日（水）14時00分～15時35分
- 2 会 場：埼玉会館5階 5B会議室
- 3 出席委員：久保田尚、金山洋一、伊藤香織、生田美樹（順不同、敬称略）
- 4 配布資料：次第、委員名簿、資料1、資料2、参考資料

5 内 容

(1) 開会

(2) 挨拶

(3) 会議の公開

- ・ 率直な意見交換を行うため、また、発言によっては特定の関係者の利害に影響がある内容を含むと考えられるとの意見を踏まえ、意見交換は非公開の扱いとすることとしたこれまでの会議と同様の取扱いとすることを決定した。

(4) 議題（委員からの主な意見）

ア 課題と取組の方向性に関する意見

(ア) 東京12号線

- ・ 12号線の延伸区間は、都県境が入り組んでいて、ここまでが東京、ここからが埼玉、というように単純ではないことが特徴の一つである。
- ・ 混雑率上昇への対応として、既設線の車両や運行本数などから輸送力がどれだけ増強できるのかの確認と検討が大事である。
- ・ 延伸によって、並行する路線の混雑が緩和されるという評価もある。このようなマクロ的視点も必要ではないか。

(イ) 東京8号線

- ・ 八潮―野田市間については、まちづくりの計画や鉄道の構造の検討が進んでいるが、押上―八潮間は進んでいないのが課題である。
- ・ 延伸区間全体のことを検討するためには、隣接都県や市町とともにどのようにやっていくのか、という体制や進め方の課題がある。

(ウ) 日暮里・舎人ライナー

- ・ 延伸想定地域は、公共交通が十分ではなく、しかも人口密度も高く、公共交通が求められているエリアである一方、混雑率のこともあり、そのまま延伸することは非常に困難である。延伸にこだわらず、柔軟に公共交通の検討を行うべきである。

(エ) 多摩都市モノレール

- ・ 上北台から延伸した場合、都県境までの距離が長いので、東京都との検討体制を作っていくことが特に重要である。
- ・ 自治体、民間事業者なども含め、様々な関係者を巻き込んで連携を図りながら検討を進め、稼げる地域を作っていく考え方も重要である。

イ 報告書の作成について

- ・ 意義、事業目的があり、そのために延伸プロジェクトを検討するのが本来のあり方である。目的に対しどのように評価するのかというのがまずあり、更に様々な効果がある、というストーリーになるとよい。
- ・ 「プロジェクトの全体の意義」が重要であるので、例えば人口密度が高い割には公共交通が十分ではないとか、そのような一般論的な意義、広い意味で鉄道を取り巻く状況を報告書に記載していただきたい。
- ・ 鉄道を取り巻く環境の変化については、これまで起こった変化だけではなく、これから人口減少が進むとか、この先の変化についても含むということを意識していただきたい。

(5) その他（事務局からの連絡）

(6) 閉会